

令和5年9月21日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）選ばれる公立高校づくりについて

私立高校授業料実質無償化がスタートしたことで、公立高校を選択するインセンティブが少なくなってしまうことを再認識した上で、これからの学校経営の戦略を練る必要があると考えている。

そこで、無償化以降の高校受験の動向について、公立・私立の受験者数や入学者数などをどのように分析しているのか、教育長に伺う。

また、その分析結果を踏まえて、選ばれる公立高校に向けた特徴づくり・魅力づくりをしていく必要があると考えるが、教育長の所見を併せて伺う。

（答）

まず、県内の公私立高等学校の受検者数につきましては、私立高等学校授業料の実質無償化前後を比較いたしますと、公立高等学校は、令和元年度の20,291人から令和5年度は15,497人と、私立高等学校は、令和元年度の17,893人から令和5年度は20,011人となっております。

また、入学者数につきましては、公立高等学校は、令和元年度の15,531人から令和5年度は14,334人と、私立高等学校は、令和元年度の7,737人から令和5年度は8,178人となっており、公立高等学校の入学者の割合は、令和元年度の66.7パーセントから令和5年度は63.7パーセントとなっております。

生徒が進学先の高等学校を選択する理由は様々であると思われませんが、私立高等学校授業料の実質無償化も一つの要因であると分析しております。

本県では、これまで「学びの変革」を推進してきており、これを先導的に実践する広島叡智学園中・高等学校におけるプロジェクト学習やデジタル機器の効果的な活用といった取組に加え、商業、工業、農業の専門学科を有する学校では、令和元年度から、「本質的な問い」による探究的な活動を核としたカリキュラムの開発・実践に取り組んでいるところであり、全国に先駆けた、こうした取組の全県への普及を図っているところでございます。

県立高等学校におきましては、主体的に学ぶ生徒が増加するなど、着実に成果が表れているものと考えております。

教育委員会といたしましては、県立高等学校の生徒一人一人が持っている

可能性を最大限に伸ばし、新たな時代を生き抜くために必要な力を着実に身に付けることができるよう、「学びの変革」を深化・発展させ、生徒に選ばれる魅力ある学校づくりを一層推進してまいります。